

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立平野北中学校

令和 7 年 11 月

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

一人ひとりを大切にする教育を進めることにより、人権意識を高め、相手の立場に立つて行動できる豊かな心をもつ生徒の育成を図っている。

生徒の自己肯定感が低い傾向にあったが、生徒の自己理解の取り組み、生徒が主体となつた行事の取り組み等により、校内調査における「自分によいところがある」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、2022 年度は 79.7%、2023 年度は 77.3%、2024 年度は 88.7% と上昇傾向がみられた。今後も継続して自己肯定感を高める取り組みを実施していきたい。

「確かな学力」の向上のために、ICT 機器等の教育機器の活用による授業改善を進めている。校内調査における「授業はわかりやすい」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、2022 年度は 91.1%、2023 年度は 93.2%、2024 年度は 96.3% と高い数値を保っている。しかし、昨年度のチャレンジテスト及び plus では、1 年生では 3 教科が大阪市平均を下回り、2 年生では 1 教科が大阪市平均を下回っていた。また、1・2 年生ともに下位層の割合が高く、より一層の基礎基本となる学力を定着させるため、よりきめ細かい指導と ICT を活用した「主体的で対話的な深い学び」への授業改善が必要である。

体力面でも、全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点で大阪市平均、全国平均を下回っている。今後もさらなる体力・運動能力を向上させる指導および取り組みを進めていく。

## 中期目標

## 【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な割合を 85% 以上とする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあります」に対して、肯定的な割合を 80% 以上とする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「よく当てはまる」と回答する生徒の割合を 85% 以上にする。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率の対大阪府比を 1.00 以上とする。
- 令和 7 年度の大阪市英語調査における C E F R A1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を 45% 以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女とも前年度より上回る種目を増やす。

## 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の「活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を 80% にする。
- 令和 7 年度の「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準 1 は 40% 以上、基準 2 は 60% 以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ④ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- ⑤ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「よく当てはまる」と回答する生徒の割合を 40%以上にする。
- ③ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- ④ 大阪市英語調査における C E F R A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を 45%以上にする。
- ⑤ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 80% 以上にする。（但し、事務局が定める学校行事等、ICT 活用が適さない日数を除く）
- ② 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- ③ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」における教職員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準 1 は 40%以上、基準 2 は 60%以上にする。

### 【その他】

- ① 食育を進め、校内調査で「給食を全部食べている・ほぼ食べている」とする回答を 90%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における「学校はいつもきれいだと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

## (様式 2)

## 大阪市立平野北中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③ 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>④ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>⑤ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部 いじめ) 生徒理解に努め、信頼関係の構築を図り、内面に迫る生徒指導を推進し、安心して学べる環境をつくる。</p> <p>指標 年2回の教育相談の実施や職員室前相談スペースの活用などを行う。 いじめアンケートを学期ごとに実施し、必要に応じて対応を行う。</p>	A
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部 不登校) 生徒理解に努め、信頼関係の構築を図り、内面に迫る生徒指導を推進し、安心して学べる環境をつくる。</p> <p>指標 家庭との連携を密にし、適切に対応する。外部 (SC, SSW, SSR など) との連携を図り、不登校生徒の割合を減少させる。(昨年度 約 13.7%) 不登校連携会議を毎月行い、不登校生徒の情報を共有する。</p>	A
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部 防災減災教育の推進) 地域、区役所、PTA と連携して、生徒の安全をまもるための教育カリキュラムを実施して、災害時等の対応に備える。</p> <p>指標 計画的に防災・減災教育カリキュラムを実施する。</p>	B
<p>取組内容④【2 豊かな心の育成】(教務部 人権を尊重する教育の推進) 生徒の実態にもとづいた人権、差別問題を学び、自分の倫理観・価値観を見つめ直す活動を行い、生きる力を引き出していく。また、講演や鑑賞を通して、日本古来の歴史や文化を尊重し、多角的な視野をもって社会に貢献する態度を育成する。</p> <p>指標 実践におけるアンケートや感想を共有し、お互いの考えを発表できる。</p>	A
<p>取組内容⑤【2 豊かな心の育成】(道徳教育推進担当 道徳教育の推進) 道徳教育を推進し、授業時数 35 時間(22項目)の確保に努める。先生方に道徳教育の研修会への参加を呼びかけ、道徳の授業力向上を目指す。</p>	B

指標 授業時数（35 時間 22 項目）を確保する。	
取組内容⑥【2 豊かな心の育成】（教務部 キャリア教育の推進） 学校内外の実習などを通して、自分の生き方を考えるスキルを身につける。	B
指標 学校評価アンケートでの取り組み内容の項目を肯定的な回答を70%以上とする	
取組内容⑦【2 豊かな心の育成】（生活指導部 特別活動の推進） お互いを認め、支え合う集団作りに努める。そのために、生徒専門委員会を含めた生徒会活動や、学校行事、学年行事を通して、集団育成を図る。	B
指標 生徒が主体的に各行事に取り組むように、委員会活動の取り組みを月ごとに生徒議会で発表して共有する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 いじめ） 指標に基づき、教育相談やいじめアンケートの実施ができている。 相談機能なども利用し、生徒の実態把握に努めることができている。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 不登校） 外部、家庭との連携を密に行なうことができている。 不登校の割合が現在 10.4%となっており、昨年度の 13.7%から減少している。	
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 防災減災教育の推進） 3 年間を通しての防災訓練実施のカリキュラムを作成し、各機関と連携して取り組めた。	
取組内容④【2 豊かな心の育成】（教務部 人権を尊重する教育の推進） 年間計画に従って、各学年ごとに人権教育実践の取り組みを進めている。また、芸術鑑賞は、世界の中での差別問題を学ぶ中から自分自身の生活につながるような内容で、生徒の感想にも成果が表れていたように思う。	
取組内容⑤【2 豊かな心の育成】（道徳教育推進担当 道徳教育の推進） 各学年、学年裁量で計画を立て、道徳の時間確保と授業力向上に努めている。	
取組内容⑥【2 豊かな心の育成】（教務部 キャリア教育の推進） 2 学期に 2 年生は 1 年生でできなかった職業講話をを行い、高校の出前授業を行った。また、11 月に職場体験を行う予定である。3 学年は 9 月に高校の先生による学校説明会を行った。3 学期に 1 学年で職業講話をを行う予定であり、自分の進路を考えるきっかけづくりを行っている。	
取組内容⑦【2 豊かな心の育成】（生活指導部 特別活動の推進） 生徒会を中心により良い生徒議会の運営に力を入れている。また、前期では生徒会が平野人権フェスティバルやスマホサミットのような活動に積極的に参加することができた。後期も生徒会を中心とし生徒議会でより良い学校にするための活動をどんどん発信していく。	
次年度への改善点	

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>① 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90% 以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「よく当てはまる」と回答する生徒の割合を 40% 以上にする。</p> <p>③ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。</p> <p>④ 大阪市英語調査における C E F R A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を 40 % 以上にする。</p> <p>⑤ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55 % 以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教務部 わかる授業づくり) 全教科、学習者用端末を活用した授業に取り組む。教科会を開き、端末を使う方法を共有するなど教科内で連携する。また、授業内で生徒が自分の考えを深めたり、広げたりする機会をつくり、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。	
指標 年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができます」として肯定的に回答する生徒の割合を 83 % 以上にする。また、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85 % 以上にする。	A
取組内容② 【4 誰一人取り残さない学力の向上】(管理職 放課後学習の充実) 学びサポーターや学校元気 UP ボランティア等を活用して、生徒個々の学力向上のために、放課後学習や定期テスト前の学習会などの学習サポートを行う。	B
指標 全国学力学習状況調査や各学年チャレンジテストの無解答率を大阪市平均以内とする。	
取組内容③ 【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教科 ICT 等を活用した、わかる授業づくり) (国語)思考・判断・表現力の向上…ICT を活用したわかりやすい授業を展開する。漢字小テスト、授業のまとめ作文を定期的に実施する。主体的対話的な学びを実践するため、単元ごとに言語活動を取り入れる。授業で図書室を利用し探求学習を実施する。	
指標 生徒アンケート調査の結果から、「国語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、全学年 85 % 以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	A

(社会) 「生徒が主体的に取り組む授業」を創造するために、まず基礎的な事項の定着をはかり、それと並行して ICT 等の教材を活用し、思考・判断力の育成に努める。	B
指標 小テストやノート点検、家庭学習課題によって、基礎的な事項の定着に努める。また、学習意欲を高めるために、ICT（視聴覚教材）等を利用した授業を創造する。生徒アンケート調査の「社会の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、全学年平均 90%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	B
(数学)生徒の基礎的な学力の定着に重点をおき、ICT を活用した授業を研究し、生徒が主体的に取り組むことのできるような授業をめざす。	B
指標 教具・教材の研究や情報交換を行い、生徒の実態・状況に適した教材を選定し、授業を創造する。また、ICT を活用し生徒の理解が深めていけるように努める。生徒アンケート調査の「数学の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	B
(理科)実験観察を基本に、生徒に考えさせる授業を展開する。ICT を活用し生徒の理解を深める。グループ学習を通して、お互いに触発しあえる授業を展開する。	A
指標 生徒アンケート調査の「理科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、全学年85パーセント以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	A
(音楽)基礎的な学習を基盤に、創造的な活動などに ICT を活用した授業を研究する。音楽活動の充実を図り、表現することの喜びや達成感を感じられることを目指した授業づくりに努める。生徒が主体となって自己表現する場を設定し、特にクラス合唱を通じて精神面での成長をめざす。	A
指標 生徒アンケート調査の「音楽の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	A
(美術)主体的に美術の活動に取り組み、基礎的な知識・技能を身に着けるとともに、豊かに発想し構想する能力や、表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力の向上を図る。また、ICT を活用し生徒の理解を深める。	A
指標 ICT 機器を活用した授業内容、展示などを活用し目標を持った作品制作を通して、充実した表現活動ができるよう、学年に応じた教材や授業展開を工夫する。生徒アンケート調査の「美術の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を目指す。	A
(保育)体力運動の向上について自分なりの目標を持ちながら、心身の機能の発達や体力の向上を目指し、健康や安全についての知識・理解を深める。	A
指標 心身の機能の発達や体力の向上につながる授業を毎時間行い、健康や安全についての理解が効率良く深まるように ICT 機器を活用した授業を構築していく。生徒アンケート調査の「保健体育の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、90%以上の肯定的な回答を目指す。	A
(技術)ものづくりの大切さや・エネルギー変換を教授しながら、教材・教具の精選をし、生活に生かせる実習・製作を行っていく。	A
(家庭)よりよく生きる力をつけるために、実践的体験を取り入れながら、後ろ盾となる知識と役に立つ技能を身につけることができるようとする。	A
指標 各教材を吟味・精選し活用することで、生徒に作業内容を的確に伝える。興味関心が高まるよう様々な工夫をこらしながら実践することで、より充実感の高い授業を目指す。また、ICT 機器を活用においてデジタルリテラシーの育成を目指したい。生徒アンケート調査の「技術の授業に前向きに取り組んでいる」「家庭科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	A
(英語)「わかる授業」「興味の持てる授業」つくりに努める。	A
指標 授業の中で英語にふれる時間を確保するため学んだ知識を用いて身近な内容や自分の意見を表現できるよう積極的にプレゼンテーションを行えるよう努める。ICT 機器を利用しながら、授業の工夫を行う。生徒アンケートの回答で「英語の授	A

<p>業を前向きに取り組んでいる」という項目で85%以上の肯定的な回答を答えることを指標とする。</p> <p>(特別支援) 生徒・保護者の教育ニーズ等をふまえ、障がいの特性を把握し、一人ひとりの状況と学習内容に応じた支援・指導に努め、自立につながる学力を養う。</p> <p>指標 生徒の実態把握のもと、関係教職員で指導計画を作成し共通理解を図る。ICT機器を活用した視覚的な支援を取り入れる。放課後等を活用した学習補充を行う。</p> <p>取組内容④【5 健やかな体の育成】(生活指導部 部活動の充実) 大阪市部活動指針に基づき、運動部や文化部の活動を充実させる。</p> <p>指標 生徒アンケート調査の「部活動は意欲を持って参加できている」の項目で、70%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教務部 わかる授業づくり) 7月の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている」と「授業はわかりやすい」に対して、どちらも肯定的に回答する生徒の割合が90%を越えている。引き続き、授業の工夫を続けていく。</p> <p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(管理職 放課後学習の充実) 学びサポーターや学校元気 UP ボランティア等を活用して、生徒個々の学力向上のために、放課後学習や学習サポートを行った。3年生全国学テにおいては、無解答率は学校 6.45%、市 9.0%であった。2.55%学校が下回っていた。</p> <p>(国語)生徒アンケート調査の結果から、「国語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の85%を上回ることができている。後期もICTや学校図書館を活用し、主体的対話的な学びの構築に努めていきたい。</p> <p>(社会)生徒アンケート調査の結果から、「社会の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の90%を上回ることができている。後期もICTを活用し、生徒が主体的・対話的に授業に取り組めるよう努めていきたい。</p> <p>(数学)生徒アンケート調査の結果から、「数学の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の80%を上回ることができている。後期もICTを活用し、生徒の理解が深めていけるように努めていきたい。</p> <p>(理科)生徒アンケート調査の結果から、「理科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の85%を上回ることができている。後期もグループ活動やICTの活用を通して、生徒に考えさせる授業を展開していきたい。</p> <p>(音楽)生徒アンケート調査の結果から、「音楽の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに80%を上回ることができている。後期も、より達成感を感じられるよう、ICTを活用して合唱・鑑賞・器楽・創作活動に取り組ませたい。</p> <p>(英語)生徒アンケート調査の結果から、「英語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに85%を上回ることができている。後期も身近な内容や自分の意見を表現できるようICTも利用しながら、授業の創意工夫に努めていきたい。</p> <p>(特別支援)保護者の意見を考慮し、個別の支援計画を慎重に再考することができた。障がいの状態や特性に応じた教材を活用し、視覚支援やICTを取り入れ、適切な指導を進めている。特別支援・通級での取り組みと、学級での支援と連携させながら、支援の充実を図っていきたい。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教務部 わかる授業づくり) 7月の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている」と「授業はわかりやすい」に対して、どちらも肯定的に回答する生徒の割合が90%を越えている。引き続き、授業の工夫を続けていく。</p> <p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(管理職 放課後学習の充実) 学びサポーターや学校元気 UP ボランティア等を活用して、生徒個々の学力向上のために、放課後学習や学習サポートを行った。3年生全国学テにおいては、無解答率は学校 6.45%、市 9.0%であった。2.55%学校が下回っていた。</p> <p>(国語)生徒アンケート調査の結果から、「国語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の85%を上回ることができている。後期もICTや学校図書館を活用し、主体的対話的な学びの構築に努めていきたい。</p> <p>(社会)生徒アンケート調査の結果から、「社会の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の90%を上回ることができている。後期もICTを活用し、生徒が主体的・対話的に授業に取り組めるよう努めていきたい。</p> <p>(数学)生徒アンケート調査の結果から、「数学の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の80%を上回ることができている。後期もICTを活用し、生徒の理解が深めていけるように努めていきたい。</p> <p>(理科)生徒アンケート調査の結果から、「理科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の85%を上回ことができている。後期もグループ活動やICTの活用を通して、生徒に考えさせる授業を展開していきたい。</p> <p>(音楽)生徒アンケート調査の結果から、「音楽の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに80%を上回ことができている。後期も、より達成感を感じられるよう、ICTを活用して合唱・鑑賞・器楽・創作活動に取り組ませたい。</p> <p>(英語)生徒アンケート調査の結果から、「英語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに85%を上回ることができている。後期も身近な内容や自分の意見を表現できるようICTも利用しながら、授業の創意工夫に努めていきたい。</p> <p>(特別支援)保護者の意見を考慮し、個別の支援計画を慎重に再考することができた。障がいの状態や特性に応じた教材を活用し、視覚支援やICTを取り入れ、適切な指導を進めている。特別支援・通級での取り組みと、学級での支援と連携させながら、支援の充実を図っていきたい。</p>	B

取組内容④【5 健やかな体の育成】(生活指導部 部活動の充実)

生徒アンケート調査の「部活動は意欲を持って参加できている」の項目で、70%以上の肯定的な回答を得ることができている。(91.8%) 後期も生徒が意欲的に、充実した活動ができるように指導していきたい。

次年度への改善点

## (様式2)

## 大阪市立平野北中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の80%以上にする。（但し、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）</p> <p>② 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>③ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」における教職員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準1は40%以上、基準2は60%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】（教務部 ICT教育推進担当）</p> <p>CI0、ICT支援員、各学年ICT担当が連携し、生徒が学習者用端末を使用しやすい環境を整える。スタディサプリ・デジタルドリル・タイミングソフト等の活用促進に努め、生徒のITリテラシーを高める。</p>	A
<p>指標 年度末の校内調査における「日々の学校生活の中で学習者用端末の活用をしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（管理職）</p> <p>教職員に対してゆとりの日として、部活動のない平日やテスト週間時の早めの退勤を促すとともに、定期テスト最終日以外の定時退勤を推奨する。また学校閉庁日を長期休業中に設定することで、教職員の休みを取りやすい環境をつくる。始業式・終業式の弾力的な運用を行う。（2学期の始業式を1日後ろ倒し、3学期の修了式を1日前倒し）</p>	C
<p>指標 教職員の長時間勤務の状況を、大阪市平均以下にする。</p>	
<p>取組内容③【8 生涯学習の支援】（教務部 図書）</p> <p>読書活動（朝読書）の推進により、学びに向かう力を育てる。また、図書ボランティア、学校司書、元気アップコーディネーターらとともに図書室の環境を整え、図書室の利用率の向上を図る。</p>	B
<p>指標 ポスターや図書だよりを発行し、図書の配置を工夫して図書の紹介に努める。学校評価アンケートの「学校図書館や学級文庫を利用している」の項目における肯定的回答の割合を前年度以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】（教務部 ICT教育推進担当）</p> <p>7月の校内調査における「日々の学校生活の中で学習者用端末の活用をしている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は90%以上であった。引き続き、学校生活での活用場面を増やしていく。</p>	

取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職)

時間外平均勤務時間 4月から9月において、本校39時間37分。大阪市38時間36分であった。本校の時間外平均勤務時間は大阪市を上回っている。ゆとりの日や学校閉庁日への協力を教職員に周知しながら、さらに改善を図っていく。

取組内容③【8 生涯学習の支援】(教務部 図書)

学校図書館移動のための閉館に伴い、特に1年生に学校図書館の利用が定着しにくい前期であった。図書委員の活動や教科の取り組みと連動し、新図書室利用率向上のために引き続き創意工夫する。

次年度への改善点

## (様式2)

## 大阪市立平野北中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【その他 食育を含めた生活習慣と教育環境整備】</p> <p>① 食育を進め、校内調査で「給食を全部食べている・ほぼ食べている」とする回答を90%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査における「学校はいつもきれいだと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【5 健やかな体の育成】(健康管理部 健康な生活習慣の確立)</p> <p>a. 保健室の来室状況などを踏まえ、実態に基づく適切な指導に努める。 また、相談活動を通して、心のケアにも努める。</p> <p>b. 学級担任、生活指導部と連携し、基本的生活習慣の育成に努めるとともに、給食の時間が楽しく豊かな食育の一環となる集団育成に努める。</p> <p>指標 b. 校内アンケートで「給食を全部食べている・ほぼ食べている」とする回答を90%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(健康管理部 学習環境の整備)</p> <p>美化委員会の活動を中心に、学習環境の整備と校内美化に努める。</p> <p>指標 学習環境の整備と校内美化の取り組みを進め、校内アンケートで「学校はいつもきれいだと思う」という割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【5 健やかな体の育成】(健康管理部 健康な生活習慣の確立)</p> <p>a. 来室生徒の訴えに応じて、適切な応急処置や保健指導を行っている。 学級担任だけでなく、SCやSSRなどと連携をし、生徒の心の健康面について支援している。</p> <p>b 「給食を食べている・ほぼ食べている」のアンケート結果は、肯定的回答の割合が94.8%であった。取り組みについては、給食の放送、毎月1回、食育通信の発行、健康委員会による完食調査及びグラフ作成を行い、掲示した。なお、健康集会・給食週間を年1回の12月に実施予定である。また、今年度より、栄養教諭による食に関する指導を各学年、年1回以上実施している。(11月には全学年終了予定)</p> <p>今年度新たな取り組みとして、個別的な相談指導(わくわくチャレンジ)を行い、肥満度±20%以上の生徒が44名(12.4%)、肥満度-20%以下の生徒が16名(4.5%)いる中で、スクリーニングを行い、成長曲線が特に気になる生徒を肥満度-20%以下の生徒の中から、8名の保護者にお説きのお手紙を発行した。その結果、申し込み1件(高度痩せの生徒より)あり、冬休み以降に行動計画を本格的実施に向けて準備しているところである。栄養教諭の専門性を生かす場面が問われるようになっている。</p> <p>取組内容②</p> <p>「学校はいつもきれいだ」の肯定的回答の割合が86.9%であった。美化委員会の清掃点検など今後も継続的に取り組み、生徒の美化意識の向上を図りたい。</p>

次年度への改善点